

牛玉所殿 ニュース

『平成二十一年三月、修復開始決定！』

牛玉所殿に新たな発見か！』

会陽守護 牛玉所殿修復奉賛会は牛玉所殿(ごうしよとん)の大修復を平成二十一年三月から着手する事を決め、これに向けて、今進められている近畿大学建築学科 櫻井敏雄(さくらい としお)博士による牛玉所殿の調査も最終段階に入りました。

博士は古建築史上稀な構造を持つ事に加え、傷みが重症である為、相当難しい修復になる事を懸念しておられます。分かり易く説明すると、牛玉所殿は世にも珍しく大変美しい服を着ているのですが、お堂の芯自体に傷みが無いものの、服の部分が大変傷んでいる状態で、この複雑な服の修復に多くの難題を抱えています。また、明らかになりつつある発見ですが、牛玉所殿の建設発願当初は現在の約半分程の大きさで、途中設計変更がなされ、一つの小さなお堂が造られた段階で、もう一つのお堂を連結させる方式で建てられた事(写真参照)が分かってきました。設計変更された理由として、思いもよらなかった讃岐の金刀比羅宮から苦難の道を渡って、金毘羅大権現(こんびらだいこんげん)が祀られる事になり、牛玉所大権現(ごうしよだいこんげん)と一緒に祀るに相応しいお堂に設計を変更したのではないかと言つ推測です。

歴史背景としての推測も、工事中に出来る継ぎ目や傷、その他、墨書などから根拠として立証する事が出来れば、更なる価値付けが可能となり、重要文化指定に向けて大きく飛躍します。牛玉所殿の建設にまつわる資料や言い伝えが非常に乏しい状況の中、櫻井博士のご苦勞も伺えますが、これらの調査資料も来年春にはまとまり、資料を基に修復計画を立て施工業者を決定し、着手に向けて進めて行く方針で固めています。

着工予定 平成二十二年三月、平成二十二年十一月
総工費 一億円

十一月十九日現在の修復寄金 28470510円
ご喜捨頂きました方々に深く感謝申し上げます。

合掌

浄財喜捨受付中

皆様の祈願・供養を書き込んでご奉納致します

奉納瓦 一枚 二千元

一願写経 一巻 五千元

受付 本堂 お守授与所



牛玉所殿

後に増築

先に建築